

白石踊後継者育成事業 白石踊会笠岡支部 今月の活動（令和元年12月～令和2年1月）

令和元年12月～令和2年1月の白石踊に関わる高校生の活動について、高校生自身に報告文を書いてもらいました。

1.第23回SOCボランティア・スピリット・アワード 文部科学大臣賞 受賞

令和元年12月21～23日にかけて東京で開かれたボランティア・スピリット・アワード（主催：プルデンシャル生命、ジブラルタ生命、プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命、日本教育新聞社 後援：文部科学省、日本赤十字社）の全国表彰式に白石踊会会員の渡辺陽が参加しました。

このボランティア・スピリット・アワードはボランティア活動に取り組む中学生・高校生を応援するプログラムです。今回は全国から21,116名の中高生のボランティア活動内容を綴った1,823通の応募があったそうです。

そのうちでブロック賞を受賞した中高生が全国表彰式に臨み、各々の取り組むボランティア活動を紹介し、交流を行いました。

私が発表したのは、白石踊を若い世代に広めるために、私たち自身が白石踊の後継者になり活動している内容です。その活動を通じて、同世代の仲間が増えてきたこと、白石踊会や地元の方々、行政、福武教育文化振興財団にご支援いただいていること、3Dで作成した美少女アイドルに白石踊を踊らせるPR構想なども発表しました。

今回は全国から集まった中高生に白石踊を知ってもらえました。私の発表を聞いて白石踊に興味を持ってくれました。全国表彰式の際には地区ブロックごとに入場したのですが、私たち中四国ブロックはみんなで月見踊りと合掌のポーズをしながら記念撮影しました。



中学生部門で1組、高校生部門で1組が最高位の文部科学大臣賞をいただけるのですが、私たち「白石踊 800年の伝統を受け継ぐ会」が高校生部門で文部科学大臣賞を受賞することができました。

このような大きな賞をいただき身が引き締まる思いです。メンバーと喜びを分かち合い、ここまで導いてくださった白石踊会を始めとする地域の皆様に厚く感謝申し上げます。

（文章：渡辺 陽）



2.第7回高校生ビジネスプラン・グランプリ 審査員特別賞 受賞

令和2年1月12日、日本政策金融公庫主催の「第7回高校生ビジネスプラン・グランプリ」が東京大学で開催されました。白石踊会会員の渡辺陽、和田雄喜、吉實沙希の3人は、3808件からファイナリスト10組に選ばれ、発表してきました。

プラン名は「重要無形民俗文化財バーチャルアイドル白石舞」です。もともと若者世代に白石踊を広めたいと思っていた私たちは、コンピューターグラフィックスを用いて作成したオリジナルの美少女キャラクターに実際の踊り手の動きを完全再現させました。その美少女の名前が白石舞です。この作業では河田瑞恵女性部長に大変お世話になりました。

白石踊をダンスゲームの楽曲に組み込んで世界中のプレイヤーが白石舞の動きに合わせて白石踊を踊れるようになるという構想を発表しました。ステージでは実際にゲーム化した場合のデモンストレーションとして白石舞に合わせて会場の観覧者と月見踊りを踊り、大盛況でした。

授賞式では審査員特別賞を受賞し、賞状とトロフィーをいただきました。(文章：渡辺 陽)



3.岩波ジュニア新書

私たち高校生が白石踊の継承活動に取り組んでいることが岩波ジュニア新書に掲載されることは以前にご報告しましたが、昨年末に発売されました。高校生が発案した「バーチャルアイドル白石舞」の制作過程も写真入りで載っています。これを読んで「自分もやってみようかな」と思ってくれる同世代の仲間が増えてくれればと思います。書名：岩波ジュニア新書



「ボランティアをやりたい! ——高校生ボランティア・アワードに集まれ」

編者：さだまさし・風に立つライオン基金 編 価格 820円+税

(文章：渡辺 陽)

4.龍谷大学 高校生ビジネスアイデアコンテスト 審査員賞&オーディエンス賞 受賞

令和2年1月12日に京都で行われた「龍谷大学 高校生ビジネスアイデアコンテスト」に出場しました。このコンテストはSDGsの持続可能な社会に向けて、社会課題を身近なところから考え、世界につながる解決のアイデアを自由な発想で「あったらいいな」のかたちで提案するものです。

当日は、全国から寄せられた380件の中から最終審査に残った高校生7名の発表と、龍谷大学生によるビジネスプランの発表がありました。



私は地元の笠岡諸島の美しさや笠岡駅からのアクセスの良さなどの長所に着目して「笠岡諸島の無人島を活用し、多くの人々にリフレッシュしてもらおう」という趣旨のプランを発表しました。

その結果、2位に相当する審査員賞と、会場の方々により選ばれるオーディエンス賞の2つの賞を受賞することができました。

岡山から離れた京都で1人でこのような大きなコンテストに出場したのは初めてで不安でしたが、審査員の方々からお褒めの言葉を多く頂き、とても嬉しい気持ちになりました。笠岡諸島の魅力も伝えられたのではないかと思います。大変良い経験になりました。

(文章：古江 唯華)

以上